

町内各地では、郷土の誇るお祭りや伝統行事が今も大切に継承されています。こうした伝統文化は、伝承者や担い手なくしては成り立ちません。厄除けや無病息災を願う人々によって脈々と受け継がれる伝統行事。人々の思いとともに現在に伝えられています。町内には、今回紹介するもの以外にもたくさんの伝統行事があります。地域の誇りとして生かしていきたいですね。

世尊寺の聖徳太子報恩大会式(4月)



聖徳太子報恩大会式は、世尊寺(比叡)にゆかりの深い聖徳太子の命日(4月22日)の法要として行われるお祭りで、現在は4月29日の祭日に開催されています。この会式は、地域ぐるみで行われる町内有数のイベントです。クライマックスは、投げ台からの大きなごく(お餅)撒きです。特に重さ6kgほどあるごくが宙を舞い、それを奪い合う様子は必見です。

畝火山口神社の水取り神事(7月)

毎年7月下旬に畝火山口神社(橿原市)の夏季大祭(でんそそ祭り)に用いる水を汲む水取り神事が、土田のケヤキ樹下の川辺で行われます。この神事は、名勝・大和三山のひとつ畝傍山と県有数の大河・吉野川の水を結ぶ民俗行事で、宝暦9年(1759)の「畝傍山口神社大谷家文書(天理図書館所蔵)」を初見記録として、現在まで引き継がれてきています。



甲神社の秋祭り(10月)



今木地区の氏神・甲神社は、飛鳥時代の豪族・蘇我入鹿の甲を祀っていると伝えられています。毎年10月に行なわれる甲神社の秋祭りは、前日の宵宮から始まります。日が落ちたころ、太鼓の音とともに、明かりを灯した高さ約4mのススキ提灯が社殿のまわりを囲みます。祭典後には地元子ども会による巫女舞、太鼓演奏の奉納と続き、翌朝の本祭にむけて、みんなが心を一つにします。

※ 上記の行事については、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は中止となる場合があります。